

目 次

プログラム

大会日程表	2
連絡事項	3
Microsoft PowerPoint® でファイルを作成する際の注意	4
各種会議のお知らせ	5
学会賞授与式・学会賞受賞講演	5
日本昆虫学会第 69 回総会案内	5
懇親会案内	5
シンポジウム	
第 1 日目 (10 月 10 日)	6
第 2 日目その 1 (10 月 11 日)	6
第 2 日目その 2 (10 月 11 日)	7
小集会	
第 2 日目 (10 月 11 日)	8
第 3 日目その 1 (10 月 12 日)	9
第 3 日目その 2 (10 月 12 日)	10
一般講演を含む全講演	
第 1 日目 (10 月 10 日)	11
第 2 日目 (10 月 11 日)	14
第 3 日目 (10 月 12 日)	17
大会参加者名簿	20
大会会場の周辺図と交通経路	24
受付・一般講演・小集会の会場案内図	25

講演要旨

A 会場 (一般講演)	27
B 会場 (一般講演)	39
C 会場 (一般講演)	51
D 会場 (一般講演)	63
E 会場 (一般講演)	75
公開シンポジウム	87
小集会 2 日目	95
小集会 3 日目	101

大会役員

大会会長：山田佳廣 (三重大院・生物資源)
副会長：山岸健三 (名城大・農)
総務：塚田森生 (三重大院・生物資源)
幹事：小野知洋 (金城学院大)・本多健一郎・河野勝行・太田 泉・北村登史雄・飯田博之・
武田光能 (野菜茶研)・小出哲哉 (愛知農総試)

大会期間中(10月10日～12日)の連絡先
(講演取り消しなど)

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577
三重大学昆虫生態学研究室 (事務局)
Tel: 059-231-9498
e-mail: kontyu@bio.mie-u.ac.jp

日本昆虫学会第 69 回大会

(2009)

プログラム



大会日程表

月 日	時 間	会 場				
		A 会場 1301	B 会場 1321	C 会場 1201	D 会場 1231	E 会場 1121
10月10日 (土)	9:00~12:00	分 類	分 類	生 理	多 様 性	行 動
			系 統	生 活 史		
	13:00~15:30	公開シンポジウム 1A (F 会場 120) / 公開シンポジウム 1B (G 会場 190)				
	15:45~16:45	学会賞授与および受賞講演 (三重大学講堂「三翠ホール」大ホール)				
	16:45~18:15	総 会 (三重大学講堂「三翠ホール」大ホール)				
18:30~20:30	懇 親 会 (三重大学講堂「三翠ホール」小ホール・ホワイエ)					
10月11日 (日)	9:00~12:00	分 類	系 統 / 発 生	生 活 史	多 様 性	行 動
			進 化 ・ 遺 伝	生 態		
	13:00~15:30	公開シンポジウム 2A (F 会場 120) / 公開シンポジウム 2B (G 会場 190)				
	15:45~18:15	公開シンポジウム 3A (F 会場 120) / 公開シンポジウム 3B (G 会場 190)				
18:30~20:30	小 集 会					
	温暖化によらない(かもしれない)チョウの分布拡大	昆虫の季節適応 談話会	昆虫担当学芸員 協議会	穿孔性昆虫を 語る会	宮川河口域における絶滅危惧種 ヒヌマイトトンボの ミチゲーション・プロジェクト	
10月12日 (月・祝)	9:00~12:00	分 類	進 化 ・ 遺 伝	生 態	形 態 組 織	行 動
			昆虫病理 有用昆虫		畜産・その他	害虫管理・生物 防除・生理活性 物質
	13:00~15:00	小 集 会				
15:15~17:15	里山昆虫 談話会	カマキリ学の解 明に向けて	昆虫分類学 若手懇シンポ	昆虫の家族をめぐる 進化生態学	虫の体温をはか る	
	双翅学会	ハナバチ談話会	日本半翅類学	国際社会性昆虫学会 日本地区会小集会	地表性甲虫 談話会	

会期：平成 21 年 10 月 10 日(土) ~ 12 日(月・祝)

会場：三重大学

津市栗真町屋町 1577

連絡事項

1. 受付 10月10日(土)午前8時30分から、三重大学共通教育3号館で行います。
2. 講演時間 一般講演は15分の講演時間(発表12分、質疑3分)を厳守願います。予鈴10分、本鈴12分、終鈴14分30秒で時間をお知らせします。講演取り消しがあった場合は時間を繰り上げず、空き時間とします。
3. 座長 発表終了者には、次の講演の座長をお願いします。午前および午後の最初の講演の座長は大会事務局で対応します。
4. 液晶プロジェクターによる発表 Microsoft PowerPoint®でファイルを作成し、コンパクトディスク(CD)に保存してください。発表の前に試写室(1111教室)で、PowerPoint 2007 for Windowsのインストールされたノートパソコン(OSはWindows XP®)を用いて、ご自身のプレゼンテーションの動作チェックを必ず行って下さい。試写室は毎日8:30に開きます。初日の2番目までの講演者は前々日までにメールの添付ファイルでお送り頂ければこちらでチェック・準備をいたします(大きなファイルは添付不可)。講演される方は、ご自身の発表の30分前にCDを会場内の係員にお渡しください。ただし、その日の初めの講演に関しては15分前といたします。開始後は講演者の指示に従って係員がパソコンを操作します。また、申し出ていただければ、講演者ご自身でパソコンを操作することもできます。講演終了後にCDをお受け取りください。CDは650MBあるいは700MBのCD-Rのみとします(CD-RW、USBフラッシュメモリーは不可)。講演者の質疑応答中に次講演のCDを立ち上げますので、質疑応答中の再投影はできません。ファイルを作成する際には次頁の「Microsoft PowerPoint®でファイルを作成する際の注意」をお読みください。
5. 公開シンポジウム シンポジウムは全て公開です。一般の方も、自由にご参加いただけます。大会参加費はいただきません。
6. 小集会 運営はそれぞれの世話人の責任で行ってください。液晶プロジェクター、およびノートパソコンは事前に申し込まれている場合のみ貸し出しますので、世話人の方は御注意ください。事前申し込みしていない場合にはご自身での準備をお願いします。
7. 懇親会 10月10日(土曜:第1日目)午後18時30分より三重大学講堂「三翠ホール」にて行います。
8. 名札 事前申し込みをされた方には講演要旨とともに名札をお送りいたします。当日参加の方には受付で名札をお渡しします。名札カードで懇親会申込者を区別しますので、懇親会会場では必ず名札をお付けください。
9. 喫煙 建物内はすべて禁煙です。会場周辺の指定の喫煙場所(灰皿のあるところ)をお願いします。
10. 駐車場 キャンパス内の駐車スペースはきわめて限られます。自家用車での参加はご遠慮ください。
11. 昼食 学会期間中10日(土)~12日(月・祝)は三重大学生協食堂が営業しています(11、12日は昼食時間のみ限定メニューにて営業)。また、大学周辺にはコンビニや食堂がありますが、なるべく生協をご利用下さい。
12. 荷物 大会本部に荷物スペースを準備します。ただし、クロークではありませんので、利用される方はご自身の責任で荷物を置いてください。また、荷物スペースのご利用は「一般講演の時間帯」に限らせていただきます。

Microsoft PowerPoint® でファイルを作成する際の注意

OS や PowerPoint® に様々なバージョンが存在するため、投影時にトラブルが予測されます。本大会でプレゼンテーションに使用するコンピューターの OS は Windows XP®、アプリケーションは Microsoft PowerPoint® 2007 です。ディスク作成後、別のコンピューターの Microsoft PowerPoint® 2007 for Windows においてファイルが正常に動作することを確認して頂けるとトラブルを最小限にできます。会場内に発表で用いるものとはほぼ同スペックのコンピューターを試写室（一般講演会場 1 階、1111 教室）に用意しますので最終確認にお使いください。また、以下のことにご注意ください。

- ・写真などの画像を使用する場合、PowerPoint® 上で縮小、回転などをせずに、あらかじめ画像ソフト等で実際に使用するサイズ・解像度（100dpi 程度）に縮小してから PowerPoint® に挿入してください。あまりファイルサイズの大きな画像を使用すると、表示できなかつたり、動作が極めて遅くなつたりします。
- ・動画の使用は、講演の本題に深く関わる場合にとどめてください。動画を使用する場合、Windows Media Player が標準で再生できる形式に限ります（AVI や mpeg）、Quick Time や Real Player は対応できません。DivX などの特殊な codec を使用することは避けてください。また、ppt ファイル、動画ファイルがともに CD 上に存在し、リンクが維持されていることを、予めご自身でよくご確認ください。
- ・コンピューター・液晶プロジェクター共に画面の解像度は XGA（1024×768）です。このサイズよりも大きい場合にはスライドの一部が表示できないことがあります。
- ・原則として音を出すことは禁止します。
- ・事前にご自身でウイルスチェックを行ってください。
- ・緑色を背景として赤色の文字を映写するといったスライドは避けてください。
- ・大会本部のコンピューターを長時間占有しての大規模な再構成、CD-R の作成は、他の講演者のご迷惑になりますので、お断りします。

円滑な運営のために、CD-R の取扱は以下の点にご注意ください。

- ・1 講演につき 1 枚の CD を用い、CD には講演用のファイル以外は入れないでください。
- ・ファイル名は原則「講演番号.ppt」としてください。特に Macintosh をご使用の方は拡張子（ファイル名最後の「.ppt」）を付けることを忘れないでください。
- ・CD-R は注意して扱い、ケースに入れてお持ちください。CD は本体またはケースに講演番号とお名前をお書きください。不測の事態に備えてバックアップデータもお持ちください。
- ・CD-R にデータを保存する時は、必ず Windows 用のフォーマット（IS09660）で、ファイナライズ（ソフトによっては「CD のセッションを閉じる」などの表現が使われています）を行ってからにしてください。これを怠った場合ファイルが開けなくなります。

各種会議のお知らせ

大会前日 10月9日(金) 生物資源学部校舎

- | | |
|---------------|--|
| 13:00 ~ 14:00 | 日本昆虫目録編集委員会 (大会議室)
電子化推進委員会 (中会議室)
日本の昆虫編集委員会 (370室) |
| 14:00 ~ 15:00 | 編集委員会 (大会議室)
自然保護委員会 (中会議室) |
| 15:00 ~ 15:30 | 幹事会 (大会議室) |
| 15:30 ~ 18:00 | 評議員会 (大会議室) |

学会賞授与式および受賞講演 (第1日目)

(三重大学講堂「三翠ホール」大ホール) 10月10日(土) 15:45 ~ 16:45

講演: 舘 卓司 (北大博物館)

受賞論文: Tachi, T. and Shima, H.(2008) Phylogenetic relationships of subgenera of the genus *Exorista* Meigen, with a revision of the Japanese species (Diptera: Tachinidae). *Entomological Science* 11: 419-448.

講演: 香川理威 (神戸大農、現 フマキラー)

受賞論文: Fujita, A., Maeto, K., Kagawa, Y. and Ito, N.(2008) Effects of forest fragmentation on species richness and composition of ground beetles (Coleoptera: Carabidae and Brachinidae) in urban landscapes. *Entomological Science* 11: 39-48.

日本昆虫学会 第69回総会 (第1日目)

(三重大学講堂「三翠ホール」大ホール) 10月10日(土) 16:45 ~ 18:15

懇親会 (第1日目)

(三重大学講堂「三翠ホール」小ホールおよびホワイエ) 10月10日(土) 18:30 ~ 20:30

公開シンポジウム 1A 10月10日(土) 13:00～15:30

「捕食寄生者の行動生態学の展望」(F会場：120教室)

企画者・世話人：山田佳廣(三重大院・生物資源・昆虫生態)

- S1A1 山田佳廣(三重大院・生物資源・昆虫生態)：捕食寄生者の行動生態学の潮流とそれを読み解く視点
- S1A2 高須啓志(九大院・農)：寄生蜂における寄主と餌の探索機構
- S1A3 上野高敏(九大・農・生防研)：捕食寄生者における餌の重要性を再考する
- S1A4 田中晋吾(北大・サステナビリティ学教育研究センター)：在来寄生蜂による侵入種への迅速な適応とその要因－アオムシコマユバチの場合

公開シンポジウム 1B 10月10日(土) 13:00～15:30

「昆虫類の種多様性と生息環境特性－昆虫の種群の特性とそれを用いた環境評価事例－」

(G会場：190教室)

企画者：間野隆裕(豊田市矢作川研究所)

世話人：間野隆裕(豊田市矢作川研究所)・北原正彦・石谷正宇

- S1B1 石谷正宇(総合科学株式会社自然環境部)：レッドリストから見た地表性甲虫類の種多様性と生息環境
 - S1B2 北原正彦(山梨県環境科学研究所)：草原－森林環境におけるチョウ類の多様性様式と保全の在り方：チョウ類を用いた自然環境評価の1事例
 - S1B3 青木典司(神戸市立須磨翔風高校)：トンボ群集の成立要因とそれを使った環境評価の視点
 - S1B4 三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館)：河川生態系における環境評価と整備計画立案のフレームワーク
- 総合討論 司会：石井 実(大阪府大院・生命環境科学・昆虫)

公開シンポジウム 2A 10月11日(日) 13:00～15:30

「社会性昆虫の繁殖制御と繁殖攪乱」(F会場：120教室)

企画者・世話人：土田浩治(岐阜大・応用生物・昆虫生態)

- S2A1 佐々木謙(金沢工業大・人間情報システム)：繁殖制御の内分泌機構とその進化
- S2A2 菊地友則(琉球大・農・亜熱帯動物)：社会性昆虫に内在する自己組織化機構と繁殖闘争の関係：ポリシングを例に
- S2A3 高橋純一(京大生態研)：ミツバチ及びマルハナバチの帰化が近縁在来種の繁殖構造に与える影響について

公開シンポジウム 2B 10月11日(日) 13:00～15:30

「フェロモン利用による害虫防除の現状と展望」(G会場：190教室)

企画者・世話人：樋口博也・高橋明彦(中央農業総合研究センター北陸研究センター)

- S2B1 石本万寿広(新潟県農業総合研究所作物研究センター)：アカヒゲホソミドリカスミカメの発生予察における合成性フェロモントラップの利用
- S2B2 新垣則雄(沖縄県農業研究センター)：交信かく乱法によるオキナワカンシャクシコメツキの防除
- S2B3 南島 誠(長野県南信農業試験場)：複合型交信攪乱剤による果樹害虫の防除

公開シンポジウム 3A 10月11日(日) 15:45～18:15

「土着天敵の評価と利用技術の展望」(F会場：120教室)

企画者・世話人：本多健一郎(野菜茶研)

- S3A1 河野勝行(野菜茶研)：土着天敵類に対する農薬の影響評価と今後の展望
- S3A2 小野 亨(宮城県古川農試)：宮城県のダイズにおけるアブラムシ類の土着天敵の評価と利用
- S3A3 天野 洋(京大院・農)：土着カブリダニの特性評価と持続的利用技術の開発
- S3A4 荒川 良(高知大・農)：高知県の施設園芸における土着天敵利用の現状と未来

公開シンポジウム 3B 10月11日(日) 15:45～18:15

「河川の昆虫と保全ー東海地方における湿原、河川、ダム、里山ー」(G会場：190教室)

主催：自然保護委員会

企画者・世話人：八田耕吉(名古屋市)

- S3B1 八田耕吉(名古屋市)：東海地方の河川および里山(湿地)での環境問題
- S3B2 内田臣一(愛知工業大学)：東海地方の河川におけるカワゲラ類の変遷
- S3B3 近藤繁生(愛知医科大学医学部)：河川とため池の水環境の変化とユスリカ類
- S3B4 西本浩之(愛知県小牧市)：特殊環境におけるトビケラ類

小集会 (第2日目) 10月11日(日) 18:30 ~ 20:30

「温暖化によらない(かもしれない)チョウの分布拡大」(A会場:1301教室)

世話人:井上大成(森林総研多摩)・松本和馬(森林総研)

- AW211 松本和馬(森林総研):明らかに温暖化によらない熱帯におけるチョウの分布拡大:人為のもたらず環境改変の役割
- AW212 津吹卓(十文字中学・高等学校):ツマグロヒョウモンの北上の原因を探る
- AW213 岩野秀俊(日大生物資源):スギタニルリシジミの分布拡大戦略における食草転換の重要性
- AW214 新部公亮(日本蝶類研究会):バシロの分布拡大、愛蝶家はどう思っているか

「第11回昆虫の季節適応談話会」(B会場:1321教室)

世話人:田中一裕(宮城学院女子大学)・後藤慎介(大阪市立大学)

- BW211 宇高寛子(大阪市大・院理):チャコウラナメクジの季節適応:生活史と光周性の地理的変異
- BW212 ○山本哲史(京都大院)・A. E. Beljaev(Institute of Biology and Soil Science)・曾田貞滋(京都大院):クロテンフユシヤクにおける季節適応による種分化
- BW213 河野勝行(野菜茶業研究所):亜熱帯の植物種子食性カメムシの生活史戦略……主にアカホシカメムシ類を例として

「第18回昆虫担当学芸員協議会総会」(C会場:1201教室)

世話人:金沢 至・初宿成彦・松本吏樹郎(大阪市立自然史博物館)

テーマ:「海外博物館事情-先進的事例を学ぶ」

- CW211 松本吏樹郎(大阪市立自然史博物館):ロンドン自然史博物館滞在記
- CW212 奥島雄一(倉敷自然史博):ヨーロッパ中央部の自然史系地方博物館-バーゼル自然史博物館ほか数館-

「第8回 穿孔性昆虫を語る会」(D会場:1231教室)

世話人:梶村 恒(名大院生命農)・荒谷邦雄(九大院比文)

- DW211 ○伊藤昌明・梶村恒(名大院生命農):日本列島における養菌性キクイムシ(Xylosandrus属)3種の遺伝的構造
- DW212 ○久保田耕平(東大農)・永幡嘉之(山形大医)・久保田典子(横浜市)・乙部宏(津市)・梅津和夫(山形大医):日本産ルリクワガタ属の生物地理
- DW213 ○小田切頭一(九大・院・比文)・永幡嘉之・梅津和夫(山形大・医・法医):チョウセンアカシジミの遺伝的多型および生物地理

「宮川河口域における絶滅危惧種ヒヌマイトトンボのミチゲーション・プロジェクト」(E会場:1121教室)

世話人:渡辺 守(筑波大・生物)・寺本悠子(筑波大・生命環境)

- EW211 渡辺 守(筑波大・生物):ミチゲーション・プロジェクトの経過
- EW212 ○味村泰代(三重大・教育)・渡辺 守(筑波大・生物):ヒヌマイトトンボ成虫の個体群動態
- EW213 ○東 敬義(三重県埋蔵文化財センター)・岩田周子(筑波大・環境科学)・渡辺 守(筑波大・生物):ヒヌマイトトンボ幼虫の個体群動態
- EW214 ○寺本悠子(筑波大・生命環境)・森本正俊(茨城大・理)・渡辺 守(筑波大・生物):ヒヌマイトトンボの生息地となるヨシ群落の構造と動態
- EW215 ○山路哲生(三重県・伊勢建設事務所)・世古口浩紀(三重県下水道公社・宮川浄化センター)・渡辺 守(筑波大・生物):宮川浄化センターの保全プロジェクト

小集会 (第3日目その1) 10月12日(火) 13:00～15:00

「里山昆虫談話会」 (A会場:1301教室)

世話人:石井 実(大阪府大)・立川周二(NPO法人自然環境復元協会)

- AW311 松本和馬(森林総合研究所):チョウとゴミムシから見た多摩の里山
AW312 ○平井規央・田上直樹・山下健太・秋田耕佑・石井 実(大阪府大院・生命・昆虫):泉佐野市日根荘のため池群の水生動物
AW313 西原昇吾(東京大学農学生命科学研究科):シャープゲンゴロウモドキの生息の現状と保全
AW314 立川周二(NPO法人自然環境復元協会):里山環境の課題と自然環境復元学会の誕生

「カマキリ学の解明に向けて 一季節適応,防衛戦略,繁殖戦略からの生態学的アプローチ」

(B会場:1321教室)

世話人:渡辺衛介(広島大)

- BW311 ○渡辺衛介(広島大院・生物圏)・三浦一芸(広島大院・生物圏,近中四農研)・安達一萩森鉄矢(大阪府環境農林水産総合研究所):カマキリの性的共食いはなぜ進化したのか?
BW312 安藤喜一(弘前市):仰天科学「カマキリの雪予想」はなぜ信じられたのか?
BW313 渡部 宏(近大院・農):カマキリ類の多様な適応的行動戦略

「昆虫分類学若手懇談会シンポジウム」(C会場:1201教室)

世話人:細谷忠嗣(九大・院・比文)・神保宇嗣(東大・院・総文)

テーマ:「分類学者は生物多様性条約にどう関わっていくべきか?」

- CW311 ○細谷忠嗣(九大・院・比文)・神保宇嗣(東大・院・総文):分類学者は生物多様性条約にどう関わっていくべきか?～イントロ～
CW312 岸本年郎(自然研):環境と分類学者とCOP10
CW313 神保宇嗣(東大院・総合文化):昆虫分類学者による情報公開とその重要性
CW314 海老原淳(科博・植物):昆虫とは(たぶん)だいぶ異なる植物の多様性研究事情
CW315 大原昌宏(北海道大学 総合博物館):生物分類学の裾野を広げるーパラタクソノミスト養成講座の実践ー

「昆虫の家族をめぐる進化生態学」第1回(D会場:1231教室)

世話人:鈴木誠治(長岡技術科学大学)・工藤慎一(鳴門教育大・院・学校教育)

テーマ:「亜社会性昆虫による子への資源投資法」

- DW311 ○工藤慎一(鳴門教育大・院・学校教育)・鈴木誠治(長岡技術科学大):親子兄弟姉妹をつなぐ進化の理:企画趣旨説明に代えて
DW312 馬場成実(九大院・生防研):子の生存に必須な栄養卵とそれを補償する栄養卵～シロヘリツチカメムシが2種類の栄養卵を産生する理由～
DW313 ○西村知良(日大・生物資源)・近 雅博(滋賀県大・環境生態):亜社会性昆虫ヨツボシモンシテムシにおける最適な子育て幼虫数を決める要因

「虫の体温をはかるー今、体温が熱い！」(E会場：1121教室)

世話人：井出純哉(京大院・理・動物生態)

- EW311 井出純哉(京大院・理・動物生態)：体温から見る昆虫の行動生態学
EW312 ○秋山耕治・西田隆義(京大院・農・昆虫生態)：体温を測ることで見えてくる日光浴行動の意味ーウスバシロチョウの幼虫を題材としてー
EW313 ○鶴井香織(京大・昆虫生態)・本間 淳(京大・動物行動)・西田隆義(京大・昆虫生態)：オーバーヒート?ー夏と闘うハラヒシバッター
EW314 ○鮫島由佳・椿 宜高(京都大学生態学研究センター)：カワトンボ属多型オスの繁殖成功度に体温調節がおよぼす影響を考える

小集会(第3日目その2) 10月12日(火) 15:15～17:15

「双翅学会」(A会場：1301教室)

世話人：中村剛之(栃木県博)・榊永一宏(琵琶湖博)・末吉昌宏(森林総研)

「双翅学会会則の改定と会誌投稿規定の策定について」

「今後の活動について」

「ハナバチ談話会」(B会場：1321教室)

世話人：宮永龍一(島根大学生物資源科学部)

- BW321 大草伸治(一宮市)：木曾川中流およびその周辺のハナバチ相
BW322 田中裕一郎(アピ株式会社)：日本におけるミツバチ不足ー養蜂家の声と現状ー

「日本半翅類学会小集会」(C会場：1201教室)

世話人：友国雅章(国立科博)

演題及び講演者：一人一話で行います

「国際社会性昆虫学会 日本地区会小集会」(D会場：1231教室)

世話人：辻 和希(琉球大)・北出 理・小島純一(茨城大)

テーマ：「昆虫分類学における昆虫標本管理の現状と課題」

- DW321 北條 賢(京都工芸繊維大学・ベンチャーラボラトリー)：寄生性シジミチョウによる宿主アリの行動制御
DW322 土畑重人(東大・院総合文化)：感染する社会の癌：アミメアリにおける裏切り戦略の進化

「第13回 地表性甲虫談話会例会」(E会場：1121教室)

世話人：藤澤貴弘(大阪府立大)

- EW321 長太伸章(京大・院・理)：本州におけるオオオサムシ亜属の分子系統地理
EW322 ○香川理威(神戸大院・農、フマキラー(株))・前藤 薫(神戸大院・農)：生態系サービスー地表性甲虫の保全的利用の観点からー

一般講演

第1日目(10月10日 土曜)午前

	A	B	C	D	E
9:00	A101 ○広渡俊哉(大阪府大院・昆虫)・黄国華(湖南農大) 中国湖南省で発見されたヒカリバコガ科の未知種	B101 ○戸田正憲・胡耀光(北大・低温研) 学名を変更すべきか、すべきでないか?: <i>Drosophila melanogaster</i> を例に	C101 ○高島拓也・竹田真木生(神戸大院・農・昆虫機能) マダラスズにおけるメトニンの経口投与が卵期間に及ぼす影響	D101 ○安田弘法・佐藤智・俵谷圭太郎・村山秀樹・西澤 隆・村山哲也・豊増知伸(山形大・農)・Erry Purnomo(LMU・農)・T Andi・Shardi・Witjaksomo・Suputa・Handjo(UG) 熱帯におけるAM菌の土壌接種が植物および節足動物の多様性創出に及ぼす影響	E101 ○林文男(首都大生命)・Xingyue LIU(首都大生命/中国農業大学)・Ding YANG(中国農業大学) キバヘビトンボ(<i>Acanthacorydalis</i>)属の大類の性的二型
9:15	A102 ○小林茂樹・広渡俊哉(大阪府大院・昆虫)・黒子 浩(阪南市) ヤナギ類に潜るコハマグリガの分類と生活史	B102 倉西良一(千葉県立中央博物館) 世界最大のトビケラ目昆虫『オオムラサキトビケラ』の再発見	C102 ○菊川茂・内多優・高橋奈々子・田中邦章・本田美保・前川達也(富山大・理・生物) ノシメダラメイガ非休眠個体の概日羽化リズム	D102 ○佐藤 智・俵谷圭太郎・安田弘法・村山秀樹・西澤 隆・村山哲也・豊増知伸(山形大・農) AM菌がアカシア上の節足動物の発生に及ぼす影響	E102 ○中瀬悠太・加藤真(京大院人・環) ヤマトネジレバネの寄主カスト選択がもたらす雄に偏った性比
9:30	A103 ○吉松慎一(農環研)・坂井誠(共生科学)・馬場友希・吉武啓(農環研)・中島忠一・北島博(森林総研)・平野賢一(福岡県森林技セ)・有森由美(佐賀県林試)・村上康明(大分県農林水研せきのこ研) シイタケオオヒロズコガとその近縁種の分類学的再検討ヤナギ類に潜るコハマグリガの分類と生活史	B103 ○大野正彦(都健康安全研)・富岡康浩(イカリ消毒)・後藤純子・作山宗樹・向山 満(NPOコウモリの保護を考える会) コウモリから採集された3種のノミについて	C103 ○田中一裕(宮城学院女子大・一般教育)・渡康彦(芦屋大・臨床教育) タマネギバエの羽化リズムの位相に及ぼす温度較差と温度レベルの影響	D103 ○丸山宗利(九大博)・小松貴(信大・理・学振DC1)・伊藤文紀(香大・農)・Rosli Hashim(マラヤ大) 熱帯雨林における生物種多様性指標としてのヒメサスライアリ	E103 ○小出哲哉(愛知農総試)・山田佳廣(三重大院・生物資源)・山口和広(愛知農総試) シダクロスズメバチの攻撃性
9:45	A104 ○矢田 脩(京大院・比文・生物体系)・R.I. Vane-Wright・J.E.Chaine(NHM, Entomology) ナミエシロチョウ亜属 <i>Appias</i> (<i>Catophaga</i>)の分類学的再検討(鱗翅目:シロチョウ科)	B104 ○関谷薫(筑波大・院・生命環境)・町田龍一郎(筑波大・菅平高原実験センター) 日本産コムシ目について	C104 ○泉洋平・吉田英哉・園田昌司(岡山大・資生研) 休眠誘導の異なるオオタバコガ蛹の低温耐性の比較	D104 ○橋本佳明(兵庫県立大学/兵庫県立人と自然の博物館)・遠藤知二(神戸女学院大学人間科学部)・市岡孝朗(京都大学総合人間学部) ボルネオ島熱帯雨林の樹冠層におけるアリとアリ擬態クモ類の多様性構造	E104 ○等々力成史(京大院・農・昆虫生態)・福井昌夫(京大院・農・昆虫生理)・藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態) ツマグロバタの鳴き交わしが繁殖成功に及ぼす影響
10:00	A105 ○勝山 礼一朗・矢田 脩(九大比文) スマトラ西方沖メンタワイ諸島におけるフタオチョウ属 <i>Charaxes</i> の種多様性(Lepidoptera: Nymphalidae)	B105 ○松尾和典(九大・生資環・昆虫)・徳田誠(理研PSC・生長制御)・湯川淳一(九大)・桐谷圭治(伊東市)・三島美佐子(九大博) 常緑樹にゴールを形成するタマバエ類の寄生蜂相—伊豆地方の場合—	C105 井上大成(森林総研多摩) 越冬後に摂食せずに2回脱皮して蛹化するギンイチモンジセセリ越冬幼虫の温度に対する反応	D105 ○末吉昌宏・小高信彦・佐藤大樹(森林総合研究所九州支所) 林道開設がやんばるの樹上棲昆虫の個体数に与える影響	E105 ○山田陽子・佐藤智・安田弘法(山形大・農)・大澤直哉(京大・農) クリサキテントウおよびナミテントウの産卵様式が幼虫の生存と発育に及ぼす影響
10:15	A106 大島康宏(栃木県立博物館) 旧北区に分布するイチモンジチョウ亜族 <i>Limnitudina</i> (鱗翅目; タテハチョウ科)の分類学的再検討	B106 ○近藤雅典・荒谷邦雄(京大院・比文・生物体系) ギンガショウジョウバエ属(双翅目, ショウジョウバエ科)の系統的位置と生物地理	C106 ○中西友章・兼田武典(徳島県果樹研究所) ヒメボクトウの卵の発育とナシにおけるふ化時期	D106 ○藤澤貴弘, 李哲敏, 石井 実(大阪府大院・生環・昆虫) 淀川河川敷、特に鶴殿のヨシ原の地表性甲虫群集の特徴	E106 新穂千賀子(兵庫県立大学・環境人間学部) タバコシバンムシの交尾器と交尾行動

第1日目(10月10日 土曜)午前(続き)

	A	B	C	D	E
10:30	A107 ○小西和彦(北農研)・芳田琢磨(北大) アラカワアリヤドリバチ属の分類(膜翅目:ヒメバチ科)	B107 ○小島純一・川村韓気・斎藤歩希(茨城大)・菅野草平(株 ユアテック) スズメバチトラップによる捕殺調査に基づく東北地方のチャイロスズメバチ(<i>Vespa dybowskii</i>)の分布について	C107 宮崎洋祐・沼田英治(大阪市大・院理)・○西村知良(日大・生物資源) ヒメマルカツオブシムシ <i>Anthrenus verbasci</i> の蛹化の概年リズムと幼虫の餌条件	D107 本野 優*・中田真哉・岡島秀治(東京農大・農・昆虫,*現在:大阪府大院・生環・昆虫) 厚木市の里山林と森林公園におけるチョウ類とゴミムシ類の環境選好性	E107 ○松野倫也・沼田英治・森山実(大阪市大・院理・生物地球) クマゼミの産卵行動のエングラム
10:45	A108 ○松本吏樹郎(大阪自然史博)・Gavin Broad(The Natural History Museum) 日本と台湾から新たに記録される <i>Rodrigama</i> 属(Ichneumonidae, Poemeniinae) のヒメバチ	B108 ○斎藤歩希(茨城大・教育・学振PD)・Nguyen TP Lien(ベトナム国立生態学・生物資源研究所)・小島純一(茨城大・理) 夜行性スズメバチ、ヤミスズメバチ属(<i>Provespa</i>)3種の分布と系統地理	C108 ○高野俊一郎・高須啓志(九大)・中村達(国際農研) 4種のヤシ苗におけるキムネクロナガハムシの発育可能性	D108 ○西本浩之・落合幾美・武井真理(愛知県農業総合試験場) ダイズ栽培における生物多様性指標生物の選抜、特にマイナー害虫に注目して	E108 ○長澤淳彦・樋口博也(中央農研北陸セ) アカヒゲホソミドリカスミカメおよびアカスジカスミカメの産卵行動の観察
11:00	A109 ○和智 仲是(九大院・システム生命)、阿部芳久(九大院・比文) <i>Ufo</i> 属(膜翅目:タマバチ科:ヤドカリタマバチ族)の分類と同居するゴールの記録	B109 ○荒谷邦雄・細谷忠嗣(九大・院・比文) 日本産カプトムシを巡る最新の知見	C109 ○荒川 良・玉田行(高知大・農) 高知県におけるトサヒラズゲンセイの生活史	D109 ○井村岳男・松村美小夜・國本佳範(奈良県農業総合センター) 奈良県の露地ネギ圃場に発生する捕食寄生蜂類の多様性	E109 ○嶋田敬介(富山大院・理工)・北條優(首都大・理工)・前川清人(富山大院・理工) エサキクチキゴキブリにおける親子間の栄養交換行動では何が受け渡されているのか?
11:15	A110 ○井手 竜也(九大院・比文)・和智 仲是(九大院・システム生命)・G. Melika(Hungary)・阿部芳久(九大院・比文) 両性世代と単性世代とが別種や別属として記載されたニホンクヌギタマバチ(膜翅目:タマバチ科)の学名の整理	B110 ○中垣 裕貴(筑波大・院・生命環境)・町田龍一郎(筑波大・菅平高原実験センター) イシノミ目の <i>engrailed</i> 相同遺伝子のクローニングと昆虫類の <i>engrailed</i> 相同遺伝子に関する系統学的考察	C110 ○牧野俊一(森林総研)・川島充博(安東大学・韓国)・小坂肇(森林総研九州) 韓国におけるスズメバチネジレバネの記録	D110 ○寺本悠子・渡辺守(筑波大院・生命環境) 人工的なヨシ群落においてヒスマイトンボ成虫が示す行動のレパートリーの変化	E110 ○鈴木誠治(長岡技大)・永野昌博(森の学校キョロロ) ヨツボシモンシデムシの父親による給餌量はいつ決まるか
11:30	A111 三田敏治(九大院・生資環・昆虫) 日本産 <i>Gonatopus</i> 属の分類学的研究(ハチ目:カマバチ科)	B111 ○水越敦・吉澤和徳(北大昆虫体系) ニホンジカとシカハジラミの系統関係	C111 ○安藤喜一(弘前市)・広瀬義躬(九大) カマキリ卵の天敵オナガアシブトコバチはPredatorか?	D111 ○山田竜平・石井実(大阪府立大院・生環・昆虫) 滋賀県南部の大戸川水系におけるトンボ類群集の多様性	E111 ○稲見岳大・大澤環哉(京都大院・農・地域環境) ヒメクロトシブミにおける母から子への投資に関する研究
11:45	A112 ○渡辺恭平(東京農大・農・昆虫)・小西和彦(北海道農研)・小島弘昭(東京農大・農・昆虫) 日本産チビマルヒメバチ亜科(新称)の分類学的研究(ハチ目, ヒメバチ科)	B112 岸本年郎(自然研) 小笠原諸島の地表性・土壌性甲虫相	C112 佐野正和(北大院・農・昆虫体系) <i>Prociophilus formosamus</i> (アブラムシ科)におけるコロニー防衛とその起源	D112 ○吉村真由美(森林総研・関西) 底生動物群集の流程分布とその支流における群集構造との関係	E112 ○伊澤和義(多治見市) オトシブミ類の産卵戦略(1)

第1日目(10月10日 土曜)午後	
	<p align="center">公開シンポジウム 1A (F会場)</p> <p>テーマ「捕食寄生者の行動生態学の展望」 企画者・世話人:山田佳廣(三重大院・生物資源・昆虫生態) S1A1 山田佳廣(三重大院・生物資源・昆虫生態)捕食寄生者の行動生態学の潮流とそれを読み解く視点 S1A2 高須啓志(九大院・農)寄生蜂における寄主と餌の探索機構 S1A3 上野高敏(九大・農・生防研)捕食寄生者における餌の重要性を再考する S1A4 田中晋吾(北大・サステナビリティ学教育研究センター)在来寄生蜂による侵入種への迅速な適応とその要因ーアオムシコマユバチの場合</p>
13:00 15:30	<p align="center">公開シンポジウム 1B (G会場)</p> <p>テーマ「昆虫類の種多様性と生息環境特性ー昆虫の種群の特性とそれを用いた環境評価事例ー」 企画者:間野隆裕(豊田市矢作川研究所)、世話人:間野隆裕(豊田市矢作川研究所)・北原正彦・石谷正宇 S1B1 石谷正宇(総合科学株式会社自然環境部)レッドリストから見た地表性甲虫類の種多様性と生息環境 S1B2 北原正彦(山梨県環境科学研究所)草原-森林環境におけるチョウ類の多様性様式と保全の在り方:チョウ類を用いた自然環境評価の1事例 S1B3 青木典司(神戸市立須磨翔風高校)トンボ群集の成立要因とそれを使った環境評価の視点 S1B4 三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館)河川生態系における環境評価と整備計画立案のフレームワーク 総合討論 司会:石井 実(大阪府大院・生命環境科学・昆虫)</p>
15:45 16:45	<p>学会賞授与および受賞講演(三重大学講堂「三翠ホール」大ホール)</p>
16:45 18:15	<p>総会(三重大学講堂「三翠ホール」大ホール)</p>
18:30 20:30	<p>懇親会(三重大学講堂「三翠ホール」小ホール・ホワイエ)</p>

一般講演

第2日目(10月11日 日曜)午前

	A	B	C	D	E
9:00	A201 ○三田井克志(九大総合研究博物館)・多田内修(九大院・農・昆虫) 中央アジアから発見されたキマダラハナバチ属 " <i>Adamon</i> 亜属" (ハチ目ミツバチ科)の未記載種について	B201 大槻章子(北大院・農・昆虫体系) カミムラカワゲラの氷期レプュージア地域におけるミトコンドリア2系統の共存	C201 ○中尾史郎・小林可奈・増田倫士郎(京都府立大・応用昆虫) オヨギカタビロアメンボの卵休眠と周年経過	D201 ○大庭伸也(岡大院・環境/長崎大・熱研)・泉 洋平・積木久明(岡大・資生研) タガメの繁殖に適した餌の解明	E201 ○秋野順治(京工織大 応生)・西森拓(広島大・理) アリの道しるべネットワーク:アリは進むべき方向を知っているのか?
9:15	A202 ○細石真吾(九州大学熱帯農学研究センター)・山根正気(鹿児島大学理学部多様性生物学)・緒方一夫(九州大学熱帯農学研究センター) アジア固有のシリアゲアリ <i>Crematogaster</i> 属 <i>Paracrema</i> 亜属の分類学的再検討(ハチ目、アリ科)	B202 ○奥野絵美(名古屋大学)・森勇一(金城学院大学)・中村俊夫(名古屋大学) 考古遺跡から得られた指標昆虫とそのAMS炭素14年代値	C202 ○田淵 研(中央農研)・滝 久智(森林総研)・水谷信夫・長坂幸吉・守屋成一(中央農研) フェロモントラップ多地点設置によるホソヘリカメムシ越冬明け個体の生息地の解明	D202 ○中村寛志・江田慧子(信州大学農学部AF C) 長野県安曇野におけるオオルリシジミ蛹放飼個体群のマーキング調査について	E202 ○後藤なな・石井実(大阪府立大・生環・昆虫) 大和葛城山におけるミヤコアオイ種子のアリによる運搬行動の観察
9:30	A203 ○北野伸雄(九大・農・昆虫)・広瀬義躬(九大) 日本におけるチャバネアオカメムシの卵寄生蜂相	B203 森 勇一(金城学院大学) 鮮新・更新統東海層群より産出した昆虫化石	C203 ○前野浩太郎・田中誠二(農生研・バッタ研究室) サバクトビバッタの相変異:成虫形態にみられる相蓄積	D203 ○江田慧子・中村寛志(信州大学農学部) 絶滅危惧種オオルリシジミ第2化成分が出現する条件	E203 ○伊藤文紀・山崎聖子(香川大・農) 沖縄産ヒメアマガエルが食べるアリ
9:45	A204 ○奥島雄一(倉敷市自然史博)・Michel Brancucci (Naturhistorisches Museum Basel) ラオスとベトナムから発見された上翅が縮小したジョウカイボン科甲虫について	B204 ○新倉和宏・小林幸正(首都大院・生命科学)・大澤勇樹(東京都)・高見泰興(神戸大院・人間環境学) アオオサムシ <i>Carabus insulicola</i> の胚発生:腹部体節にみられる付属肢様突起の系統学的意義	C204 ○遠藤千尋(新潟大・自然)・池田勇介・佐藤綾(琉球大・理) ケラにおける翅型二型の地理的変異:兵庫と沖縄での比較	D204 ○藤山静雄・上條慶子・奥村知祥(信州大学理学部) 松本市庄内地区における都市再開発に伴うヘイケボタル生息地の復元	E204 ○笹川浩美・加藤紗恵香・中野良一(日本科学技術振興財団JSF・科学技術館) ミツバチ類の社会性行動を引き起こす情報化学物質とヒト社会の科学コミュニケーション
10:00	A205 ○千田喜博(愛媛大・農)・丸山宗利(九大博) 日本産ミヤマヒメハネカクシ属 <i>Geostiba</i> (コウチュウ目:ハネカクシ科)の分類学的研究	B205 ○渡邊 大・白崎一佳・前川清人(富山大院・理工) ヤマトシロアリの成虫形質と兵蟻形質の発達に対する幼若ホルモンの影響	C205 ○須田 大祐・渡辺守(筑波大学大学院生命環境科学研究科) 里山景観に生息するノシメトンボの摂食量と繁殖戦略	D205 ○久松 正樹(ミュージアムパーク茨城県自然博物館) 茨城県における野生ハナバチの群集構造の比較検討	E205 ○石川善大・山田佳廣・松浦誠(三重大院・生物資源) ヤマトアシナガバチにおける最優位ワーカーによるクイーン交代
10:15	A206 ○山本周平(九大農)・丸山宗利(九大博) 日本産ヒゲトハネカクシ属 <i>Aleochara</i> (甲虫目:ハネカクシ科:ヒゲトハネカクシ亜科)の分類(予報)	B206 ○三島美佐子(九大・博)・佐藤信輔(宮大・農・昆虫)・滝沢幸雄(林振)・湯川淳一(九大) 寄主の葉の表裏で棲み分けるブナカイガラタマバエ(双翅目:タマバエ科)2型の生殖的隔離と起源	C206 藏満司夢(筑波大学生命環境学群生物学類) オトシブミコマユバチの寄主選択に関する研究	D206 Maleque M.A.・○前藤 薫(神戸大院・農)・牧野俊一・田中 浩・長谷川元洋・後藤秀章(森林総研) コマユバチ科寄生蜂の豊かさを決める林床の植生と腐植量	E206 宮野 伸也(千葉県立中央博物館) アシナガバチ幼虫のハンドレリングの試み

第2日目(10月11日 日曜)午前(続き)

	A	B	C	D	E
10:30	A207 島田 孝((株)静環検査センター) 台湾と琉球列島で見えられた <i>Paraploderus</i> 属の2未記載種について(甲虫目:ハネカクシ科、セスジハネカクシ亜科)	B207 〇村田祐亮(北海道大院・環境)・井出尾進介(和多田正義(愛媛大院・理工)・三井偉由・木村正人(北海道大院・環境) シヨウジョウバエ寄生蜂 <i>Asobara japonica</i> の有性生殖及び単為生殖個体群における遺伝的・生理的変異	C207 菅孔太郎・小溝克己(鹿児島県立錦江湾高校) オトシブミコマユバチの交尾・産卵行動の観察	D207 〇深澤悟・長谷川雅美(東邦大)・宮野伸也(千葉県立中央博物館) 伊豆諸島のハチ類相-種数面積および種数距離の関係-	E207 〇岡崎達也(茨城大・理)・桑原隆明(金沢大院・自然科学)・山根爽一(茨城大・教育・生物)・西川陽子(茨城大・教育・家庭) 日本産および台湾産スズメバチ(<i>Vespa</i>)属6種における巣材とその化学成分組成
10:45	A208 古川恒太(北大院・農・昆虫体系) 日本産ミジンムシ科(コウチュウ目:ヒラタムシ上科)の分類	B208 上村佳孝(慶應大・生物) キイロシヨウジョウバエ <i>Drosophila melanogaster</i> の交尾	C208 〇安岡拓郎(神戸大学院・農学研究科)・八木剛(兵庫県立人と自然の博物館)・前藤 薫・竹田真木生(神戸大学院・農学研究科) ヒメボタルの発光時刻の地理的変異とその分布	D208 〇川崎典晃・石井実(大阪府大院・生環・昆虫) 大阪府内の都市緑地におけるチョウ類群集の多様性と変化(その2)	E208 〇桑原隆明(金沢大院・自然科学)・山根爽一(茨城大・教育・生物)・岡崎達也(茨城大・理)・西川陽子(茨城大・教育・家庭) アシナガバチ亜科(Polistinae)6種の巣に含まれる口内分泌物および繭の加水分解アミノ酸組成
11:00	A209 〇吉武 啓(農業環境技術研究所)・藤沢 巧(岩手県農業研究センター)・後藤純子(岩手県中央農業普及センター)・千葉武勝(盛岡市) ワサビの害虫ゾウムシの正体	B209 〇Novkovic Biljana・木村正人(北海道大院・環境) アジア産の <i>Leptopilina</i> 属の系統と進化	C209 大澤直哉(京大院農・森林生態) ナミントウの発生卵と未発生卵の卵門について	D209 野村周平(国立科博) 山梨県北東部山地におけるアリゾカムシ群集の多様性(コウチュウ目、ハネカクシ科、アリゾカムシ亜科)	E209 〇谷 聡一郎・上野高敏(九大院・生防研) ソチバチの雄における巡回地定着と長期記憶
11:15	A210 瀬島翔馬(九大院・生資環・昆虫) 日本産ヒツメタマゾウムシ属の分類学的再検討(コウチュウ目、ゾウムシ科)	B210 〇安達鉄矢(大阪環農水総研)・三浦一芸(広島大院・生物圏・近中四農研)・阿部芳久(九大院・比文)・Nicole Fisher・John La Salle(CSIRO) ハモグリミドリヒメコバチ <i>Neochrysocharis formosa</i> における共生細菌 <i>Rickettsia</i> による同所的種分化	C210 〇北出理・神田紘美(茨城大・理) 生殖虫を除去したヤマトシロアリ属初期巣での単為生殖とニンプ生産	D210 〇所諭史(茨城大院・教育)・五箇公一(国立環境研)・山根爽一(茨城大教育・生物) 遺伝子と形態からみたヒラタクワガタ <i>Dorcus titanus</i> の地理的変異	E210 〇佐山勝彦(森林総研北海道)・小坂 肇(森林総研九州)・牧野俊一(森林総研) キイロスズメバチ女王に寄生したタマセンチュウは寄生の越冬行動を利用する?
11:30	A211 山迫淳介(愛媛大・農・昆虫) 日本産 <i>Mesosa</i> (ゴマフカミキリ属)の分類学的再検討(コウチュウ目、カミキリムシ科)~ <i>Mesosa</i> 亜属の所属について~	B211 〇遠藤真太郎(信州大・総工・山岳)・市野隆雄(信州大・理・生物) アリはアブラムシにCHCで目印をつけて捕食するかを決めている!?	C211 〇星 真大・北出理(茨城大・理・生物) ヤエヤマシロアリ <i>Reticulitermes yaeeyamanus</i> の野外コロニーにおけるカスト構成と性比	D211 〇上田明良・伊藤正仁・佐山勝彦・尾崎研一(森林総研北海道) 立ち枯れ木に設置した衝突板トラップによる甲虫の捕獲	E211 〇渡部宏・矢野栄二(近大・農) Behavioral response of the mantid <i>Tenodera aridifolia</i> to wind as a cryptic approach strategy to prey
11:45	A212 栗原 隆(農環研) <i>Oberea fuscipennis</i> (Chevrolat)とその近縁種について(コウチュウ目、カミキリムシ科)	B212 直海俊一郎(千葉県立中央博物館) 種概念問題と種の境界設定問題を区別する	C212 〇上田 紘司(岩手大院・連合農)・佐藤 智・安田 弘法(山形大・農) 捕食寄生者(<i>Aphidius colemani</i>)の生活史特性に及ぼすアーバスキュラー菌根菌の影響	D212 〇川添和英(名古屋市)・岡部貴美子(森林総研)・川北篤(京大院・人環)・加藤真(京大院・人環) 東洋区産タイワンタケマバチとそれに乗るコナダニの東海地方への侵入とその潜在的リスク	E212 〇新垣則雄(沖農研)・下地幸夫(沖大地研)・若村定男(農生研) リュウキュウツヤハナムグリ <i>Protaetia pryleri pryleri</i> (Janson)は樟脳に誘引される

第2日目(10月11日 日曜)午後	
13:00 15:30	<p align="center">公開シンポジウム 2A (F会場)</p> <p>テーマ「社会性昆虫の繁殖制御と繁殖攪乱」 企画者・世話人: 土田浩治(岐阜大・応用生物・昆虫生態) S2A1 佐々木謙(金沢工業大・人間情報システム) 繁殖制御の内分泌機構とその進化 S2A2 菊地友則(琉球大・農・亜熱帯動物): 社会性昆虫に内在する自己組織化機構と繁殖競争の関係: ポリシングを例に S2A3 高橋純一(京大生態研): ミツバチ及びマルハナバチの帰化が近縁在来種の繁殖構造に与える影響について</p>
	<p align="center">公開シンポジウム 2B (G会場)</p> <p>テーマ「フェロモン利用による害虫防除の現状と展望」 企画者・世話人: 樋口博也・高橋明彦(中央農業総合研究センター北陸研究センター) S2B1 石本万寿広(新潟県農業総合研究所作物研究センター) アカヒゲホソミドリカスミカメの発生予察における合成性フェロモントラップの利用 S2B2 新垣則雄(沖縄県農業研究センター) 交信かく乱法によるオキナワカンシヤクシコメツキの防除 S2B3 南島 誠(長野県南信農業試験場) 複合型交信攪乱剤による果樹害虫の防除</p>
15:45 18:15	<p align="center">公開シンポジウム 3A (F会場)</p> <p>テーマ「土着天敵の評価と利用技術の展望」 企画者・世話人: 本多健一郎(野菜茶研) S3A1 河野勝行(野菜茶研) 土着天敵類に対する農薬の影響評価と今後の展望 S3A2 小野 亨(宮城県古川農試) 宮城県のダイズにおけるアブラムシ類の土着天敵の評価と利用 S3A3 天野 洋(京大院・農) 土着カブリダニの特性評価と持続的利用技術の開発 S3A4 荒川 良(高知大・農) 高知県の施設園芸における土着天敵利用の現状と未来</p>
	<p align="center">公開シンポジウム 3B (G会場)</p> <p>テーマ「河川の昆虫と保全—東海地方における湿原、河川、ダム、里山—」 企画者・世話人: 八田耕吉(名古屋市) S3B1 八田耕吉(名古屋市) 東海地方の河川および里山(湿地)での環境問題 S3B2 内田臣一(愛知工業大学) 東海地方の河川におけるカワゲラ類の変遷 S3B3 近藤繁生(愛知医科大学医学部) 河川とため池の水環境の変化とユスリカ類 S3B4 西本浩之(愛知県小牧市) 特殊環境におけるトビケラ類</p>

第2日目(10月11日 日曜)夕刻(小集会)					
	A	B	C	D	E
18:30 20:30	AW21. 温暖化によらない(かもしれない)チョウの分布拡大	BW21. 第11回昆虫の季節適応談話会	CW21. 第18回昆虫担当学芸員協議会総会「海外博物館事情—先進的事例を学ぶ—」	DW21. 第8回穿孔性昆虫を語る会	EW21. 宮川河口域における絶滅危惧種ヒヌマイトンボのミチゲーション・プロジェクト

一般講演

第3日目(10月12日 月曜・祝日)午前

	A	B	C	D	E
9:00	A301 ○井村仁平・石川忠 (東京農大・農・昆虫) ヂムグリツチカメムシ <i>Schiodtella formosana</i> (カ メムシ目:ツチカメムシ科) の分類学的再検討	B301 ○藤山直之(北教大 旭川・生物)・片倉晴雄(北 大院理・自然史科学) エンザミテントウ幼虫の 副次的食草利用能力にみ られる遺伝的変異と遺伝 共分散	C301 ○坂本佳子・平井規 央・広渡俊哉(大阪府大 院・生命)・矢後勝也(東大 院・理)・石井 実(大阪府 大院・生命) <i>Wolbachia</i> に感染したシル ビアシジミ雌から生まれた 性モザイク個体	D301 ○上田恭一郎(北九 州市立自然史・歴史博物 館) ヤガ上科の鼓膜器官	E301 ○田中陽介(九大・ システム生命)・粕谷英一 (九大・理) オンブバッタの排泄行動: けり飛ばしたフンの飛距離
9:15	A302 ○Liu Hui (Kyushu Univ.)・Cai Wanzhi (China Agricultural University)・ Satoshi Kamitani (Kyushu Univ.) Taxonomic status of <i>Velinoides Matsumura</i> (Hemiptera: Reduviidae: Harpactorinae) inferred from mitochondrial and nuclear genes	B302 ○山崎聡子・太田有 理・片倉晴雄(北大院・理) アザミ類の系統関係とエン ザミテントウの食草として の好適さの関連	C302 ○萩原康夫(昭和 大)・秋野順治・北條賢(京 都工芸繊維大学) 好蠟性シジミチョウ蛹体表 面の樹状刺毛長とアリの 同伴頻度	D302 ○赤嶺真由美(滋賀 県立大・院)・石川謙(東工 大・理工)・前川清人(富山 大・理工)・近雅博(滋賀県 立大・環境) オオセンチコガネの鞘翅 の構造色	E302 小野田晃治(千葉 シャープゲンゴロウモドキ 保全研究会) マルコガタノゲンゴロウ幼 虫の水上排泄行動
9:30	A303 ○紙谷聡志(九大 院・農・昆虫)・林 正美 (埼玉大・教育・生物) 日本産スカシヨコバイ属 <i>Scaphoideus</i> の分類学的 再検討(カメムシ目:ヨコバ イ科)	B303 ○太田有理(北大 院・理)・Sih Kahono(イン ドネシア科学院)・片倉晴 雄(北大院・理) 東南アジア産マダラテント ウ <i>Epilachna alternans</i> 種群 の分子系統解析	C303 ○高須賀圭三(愛媛 大学連合農学研究科)・松 本吏樹郎(大阪自然史博 物館) マダラコブクモヒメバチ <i>Zatyota albicoxa</i> 幼虫の 寄生様式(Hymenoptera, Ichneumonidae, <i>Polysphincta</i> -group)	D303 沢田佳久(兵庫県 博・昆虫共生) オトシブミの性的二型	E303 ○鈴木紀之、西田隆 義(京大院・昆虫生態)、 大澤直哉(京大院・森林生 態) なぜクリサキテントウは松 のアブラムシに特殊化でき るのか?
9:45	A304 大原直通(九大 院・生資源・昆虫) 日本産マダラヒメヨコバイ 族 <i>Erythroneurini</i> (カメムシ 目:ヨコバイ科)の分類学 的研究	B304 ○立田晴記(琉大 農)・八尾泉・秋元信一(北 大農) 景観遺伝学的解析に基づ くクサツキバツタ <i>Podisma kanoi</i> に見られる遺伝構造	C304 ○広瀬義躬(九大) ・加藤義臣(国際基督教 大)・Chin-Ming Wu・Yu- Feng Hsu(国立台湾師範 大) ジャコウアゲハの卵寄生蜂 の発見とその意義	D304 ○浅野 真・小島 弘昭(東京農大・農・昆虫) インジョウカイモドキは胚子 態で“孵化”する	E304 ○板谷弘樹・上野高 敏(九大院・生防研) 水田の主要寄生蜂の性 フェロモンと雌雄で異なる 交尾時期
10:00	A305 奥寺 繁(九大 院・生資源・昆虫) 日本産ハトムネヨコバイ属 の分類学的研究(カメムシ 目:ヨコバイ科)	B305 ○北條 優(首都大 理工)、山本 知代、梅 浩 平、前川 清人(富山大 院・理) ヤマトシロアリの兵隊にお ける防衛物質合成に関わ る遺伝子の発現解析	C305 ○井上真紀・富永 篤・岡本卓・所諭史・諸岡 史哉・五箇公一(国立環境 研究所) 侵略的外来種アルゼンチ ンアリのスーパーコロニー 間における闘争関係の解 明	D305 ○清水 晃(首都 大・生命)・高橋秀男(東京 都)・新津修平・大里沙羅 (首都大・生命) ウグイスカグラヒメハナバチ (ハナバチ上科:ヒメハナ バチ科)の訪花行動と形 態適応	E305 ○桐谷圭治(伊東 市)・湯川淳一(九大)・藤 崎憲治(京大院・農・昆虫 生態) 地球温暖下のミナミアオカ メムシのこれから
10:15	A306 ○安藤藍子(九大 農・昆虫)・紙谷聡志(九大 院・農・昆虫) DNAバーコードを用いた 日本産ヨコバイ科の同定 (カメムシ目:ヨコバイ科)	B306 ○土居朋嵩・荒谷邦 雄・細谷忠嗣(九大・院・比 文) 日本産ナガサキアゲハ <i>Papilio memnon thunbergii</i> の雌斑紋の地 理的変異と気温との関係	C306 ○川村緯気・小島純 一(茨城大・理)・菅野草平 (株 ユアテック) 本州北部におけるスズメバ チに対するネジレバネの 寄生について	D306 館 卓司(北大総合 博物館) 双翅目における後胸の比 較形態学的研究	E306 ○市田忠夫(青森農 林総研) 薬剤散布を行った場合の アカヒゲホソミドリカスミカ メによる被害穂の特徴

第3日目(10月12日 月曜・祝日)午前(続き)					
J	A	B	C	D	E
10:30	A307 ○湯川淳一(九大)・池長裕史(中央農研)・徳田 誠(理研)・上地奈美(果樹研) クズハトガリタマバシのゴール形成者と寄主範囲	B307 ○吉澤和徳・水越敦(北海道大学大学院農学研究院昆虫体系学教室) シカハジラミから見いだされたミトコンドリア微小環	C307 ○藤井智久(鹿大・理・地球環境)・徳田 誠(理研PSC・生長制御)・湯川淳一(九大)・三島美佐子(九大博) 幼虫の色彩とゴールの形状に二型を示すマサキタマバエ(ハエ目:タマバエ科)の分子系統解析	D307 ○山田大邦(札幌)・片桐千仞(北大・低温研生化)・宮下洋子(道文教大・人間科学健康栄養)・秋元信一(北大院農・昆虫体系) トドノネオオワタムシ(ユキムシ)とエゾヨスジワタムシの縮毛構造	E307 ○田中 寛(大阪環農水総研)・保田淑郎(宝塚造形芸大)・長谷川 浩・横山健次(関西国際空港株)・柴尾 学(大阪環農水総研) 関西国際空港の1995年と2007年におけるトノサマバッタの大発生
10:45	A308 ○佐藤信輔(宮崎大学農学部)・湯川淳一(九州大学) 奄美大島と沖縄本島でクワノハエノキ <i>Celtis boninensis</i> (ニレ科)の葉上にゴールを形成する <i>Celticecis</i> 属タマバエ(双翅目:タマバエ科)の2新種	B308 ○鶴崎展巨・川口みなこ(鳥取大学・地域学部・生物学研究室) 染色体数分化によるアカサビザトウムシの環状重複	C308 ○徳田 誠(理研PSC・生長制御)・松尾和典(九大・生資環・昆虫)・湯川淳一(九大)・桐谷圭治(伊東市)・三島美佐子(九大博) 伊豆半島および伊豆諸島におけるシロダモタマバエの分布と密度、および、寄主植物との同時性の比較	D308 ○松村洋子・吉澤和徳(北大・農院・昆虫体系) 極端に長い交尾器の挿入・引き抜きメカニズム	E308 ○J. Makatiani・K. Takasu(Kyushu University)・A. Alyokhin(University of Maine) Effects of insecticide odors on food foraging in the larval parasitoid <i>Microplitis croceipes</i>
11:00	A309 宇津木 望(東京大学大学院総合文化研究科) 日本産 <i>Laphria</i> 属(双翅目, ムシヒキアブ科)の分類学的研究	B309 井原 庸(財団法人広島県環境保健協会) カチドキナミハグモ近縁種群の隠蔽種:サイズの分化と種間相互作用による複雑な地理的モザイク	C309 篠崎祐加里・○佐藤宏明(奈良女子大・理) 早期落葉がもたらすシカの潜葉性小蛾幼虫の捕食は重要か?: Yamazaki & Sugiura (2008)への反論	D309 ○金子文俊・片桐千仞(北大低温研)・伴野豊(九大農学院)白井孝治(信州大繊維) 熱重量分析法を用いた繭の透湿度測定	E309 ○三浦一芸(近中四農研・広島大)・渡部真也(広島大) 共生微生物に感染しているか調べなくても良いですか?
11:15	A310 三枝豊平(福岡市)日本列島のハネカ科 Nymphomyiidaeの概観(Diptera)	B310 ○城所久良子(農生研)・伊藤克彦(東大農)・OGOYI O. Dorington・三田和英・門野敬子(農生研) カイコ1型濃核病ウイルス抵抗性遺伝子 <i>nsd-1</i> と <i>Nid-1</i> によるウイルス抵抗性機構の違い	C310 ○田中宏卓・大西一志・立田晴記・辻和希(筑大・農・昆虫) ソテツ上に発生するカイガラムシとアリの共生パターン	D310 ○山内健生(富山衛研)・田原研司(島根保環科学研)・金森弘樹(島根中山間地域研究セ)・川端寛樹・新井 智(感染研)・片山 丘(神奈川衛研)・藤田博己(大原研)・矢野泰弘・高田伸弘(福井大・医)・板垣朝夫(島根保環科学研) 島根県の日本紅斑熱汚染地域におけるマダニ相	E310 ○小川浩平・荒川良(高知大・農・昆虫) 加熱または冷凍処理したイエバエ閉蛹による土着イエバエ寄生蜂の簡易増殖法の検討
11:30	A311 ○須島充昭・加藤俊英・伊藤元己(東大・総合文化) 集団で行進するクロバネキノコバエ科幼虫 armywormの分子同定	B311 ○喜久村(我那覇)智子(沖縄農研セ)・安部順一郎(近中四農研セ)・大野豪(沖縄農研セ)・宮城聡子(沖縄農研セ宮古島支所)・徳田誠(理研)・上地奈美(果樹研)・湯川淳一(九大) 沖縄県にはハダニ捕食性の <i>Feltiella</i> 属タマバエが少なくとも2種いる	C311 ○増田倫士郎・中尾史郎(京都府立大院・応用昆虫) エサキアメンボの季節的移動の可能性—光周期が離陸行動、飛翔筋発達および腹面色彩に及ぼす影響—	D311 ○内船俊樹・安池尋幸・大場信義(横須賀市博) 150年前の遣使使節資料から見つかったホタル	E311 ○佐藤安志・大泰司・誠・石島力(農研機構・野茶研・金谷)・望月文昭(信越化学) ナナセツトビコバチを誘引するクワシロカイガラムシの合成性フェロモン
11:45	A312 中村剛之(栃木県立博物館) <i>Cladura</i> 属(双翅目:ヒメガガンボ科)の分類学的研究 種群の特徴と亜属への分割について		C312 ○稲田勝重・森野浩(茨城大・理) 茨城県北部におけるオオコオイムシ(<i>Appasus major</i>)の移動と遺伝的多様性に関する研究		

第3日目(10月12日 月曜・祝日)午後(小集会)					
	A	B	C	D	E
13:00 15:00	AW31. 里山昆虫談話会	BW31. カマキリ学の解明に向けて-季節適応,防衛戦略,繁殖戦略からの生態学的アプローチ-	CW31. 昆虫分類学若手懇談会シンポジウム「分類学者は生物多様性条約にどう関わっていくべきか？」	DW31. 「昆虫の家族をめぐる進化生態学」第1回「亜社会性昆虫による子への資源投資法」	EW31. 虫の体温をはかる-今、体温が熱い！
15:15 17:15	AW32. 双翅学会	BW32. ハナバチ談話会	CW32. 日本半翅類学会	DW32. 国際社会性昆虫学会 日本地区会小集会	EW32. 第13回 地表性甲虫談話会例会

大会参加者名簿

(7月24日現在、アルファベット順)

○は懇親会申込者、名前のあとの記号は講演番号(発表者のみ)

A

- | | | | |
|---------------------|------------|----------------------|-------|
| ○阿部芳久(九大院・比較社会文化) | | ○東敬義(三重県埋蔵文化財セ) | EW213 |
| ○安達鉄矢(大阪府環境農林水産総合研) | B210 | ○樋口博也(中央農業総合研究セ) | |
| ○赤嶺真由美(滋賀県大・環境科学) | D302 | 平井規央(大阪府大院) | AW312 |
| 秋野順治(工織大・化学生態) | E201 | ○平田慎一郎(きしわだ自然資料館) | |
| 秋山耕治(京大院・農・昆虫生態) | EW312 | 弘岡拓人(近畿大・農) | |
| ○天野洋(京大院・農・生態情報開発) | S3A3 | ○広瀬義躬(九大) | C304 |
| 安藤藍子(九大・農・昆虫) | A306 | ○広渡俊哉(大阪府大) | A101 |
| ○安藤喜一(弘前市) | C111 BW312 | ○久松正樹(茨城県自然博物館) | D205 |
| 青木典司(神戸市立須磨翔風高) | S1B3 | 北條賢(工織大・ベンチャーラボラトリー) | DW321 |
| ○新垣則雄(沖縄県農業研究セ) | E212 S2B2 | 北條優(首都大・都市教養) | B305 |
| ○荒川良(高知大・農) | S3A4 C109 | ○本多健一郎(野茶研) | |
| ○荒谷邦雄(九大院・比較社会文化) | B109 | ○星真大(茨城大院・理工・自然史) | C211 |
| 旭和也(神戸大) | | ○細石真吾(九大・熱農研セ) | A202 |
| ○浅野真(東京農大) | D304 | ○細谷忠嗣(九大院・比較社会文化) | CW311 |

B

馬場成実(九大・生資環) DW312

D

土畑重人(東大院・総合文化) DW322
土居朋嵩(九大院・比較社会文化) B306

E

海老原淳(国立科博・植物) CW314
遠藤千尋(新潟大院・自然科学) C204
○遠藤真太郎(信州大院・山岳地域環境科学) B211

F

○藤井智久(鹿児島大・理・地球環境) C307
○藤澤貴弘(大阪府大院・生環・昆虫) D106
○藤山直之(北教大・旭川・生物) B301
○藤山静雄(信州大・理・生物) D204
深澤悟(東邦大) D207
○福富宏和(石川県ふれあい昆虫館)

G

○後藤なな(大阪府大・生命環境) E202
○後藤慎介(大阪市大院・理)

H

○萩原康夫(昭和大) C302
○濱西洋(無所属(三田市))
○橋本佳明(兵庫県大・人自博) D104
○八田耕吉(名古屋市) S3B1
○林文男(首都大・理工) E101
○日高敏隆(京都市)
○東尾治伸(玉野総合コンサルタント)

I

○市川憲平(姫路市立水族館)
○市田忠夫(青森県産技セ・農林総合研) E306
○井出純哉(京大院・理・動物生態) EW311
○井手竜也(九大院・比較社会文化学府) A110
○井原庸(広島県環境保健協会) B309
○飯田博之(野茶研)
○井村仁平(東京農大・農・昆虫) A301
○井村岳男(奈良県農業総合セ) D109
稲田勝重(茨城大院・理工) C312
稲見岳大(京大院・農・地域環境科学・) E111
○井上真紀(国立環境研究所) C305
○井上大成(森林総研・多摩森林科学園) C105
○石井実(大阪府大院・生環科)
石川善大(三重大院・昆虫生態) E205
石本万寿広(新潟県農総研・作物研究セ) S2B1
○石谷正宇(総合科学(株)自然環境部) S1B1
板谷弘樹(九大・生資環府・天敵昆虫) E304
○伊藤文紀(香川大・農) E203
伊藤昌明(名大院・生命農) DW211
伊藤建夫(八幡市)
○伊藤嘉昭(日進市)
岩野秀俊(日本大・生物資源) AW213
○伊澤和義(多治見市) E112
泉洋平(岡山大・資源生物科学研) C104

J

○神保宇嗣(東大) CW313

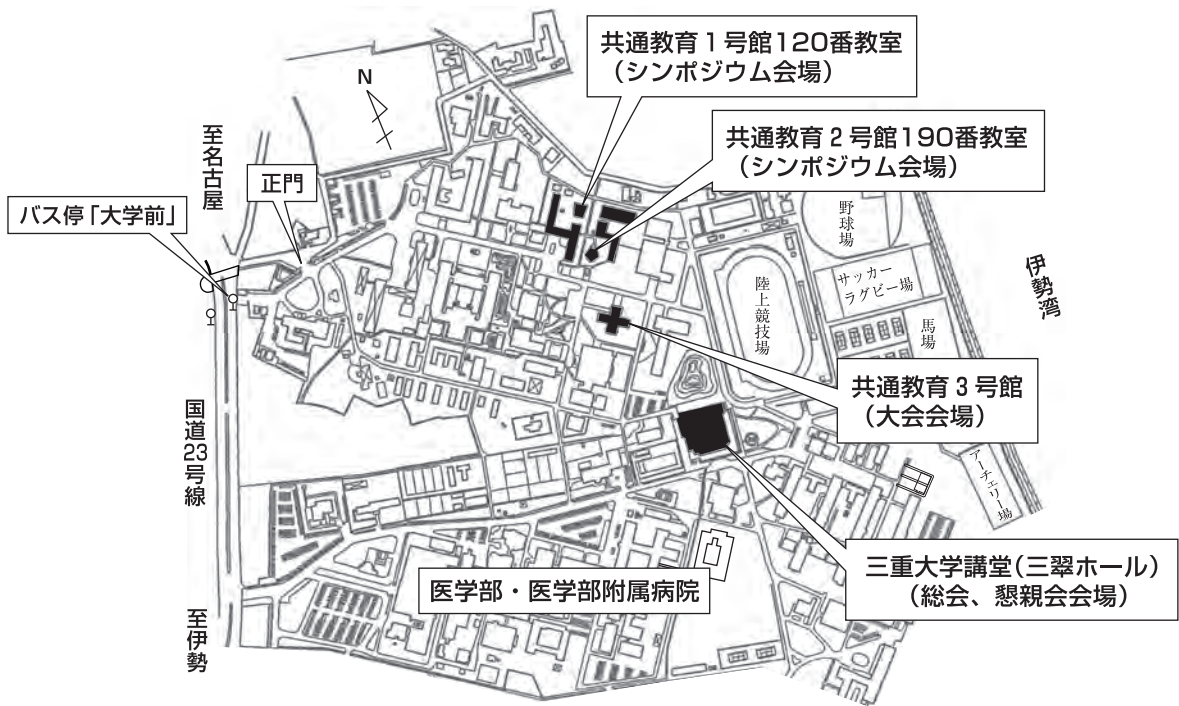
K

○香川理威(フマキラー) EW322

上條慶子(松本市)		丸山宗利(九大・総合研究博物館)	D103
○ 上村佳孝(慶應義塾大・生物学)	B208	○ 正木進三(弘前市)	
○ 紙谷聡志(九大・農・昆虫)	A303	○ 西川勝(愛媛大・農・環境昆虫)	
○ 金沢至(大阪市立自然史博物館)		真下雄太(筑波大・第二学群生物学類)	
金子文俊(大阪大院・理)	D309	増田倫士郎(京都府大)	C311
○ 金子順一郎(平尾山公園「パラダ」昆虫体験学習館)		○ 松本和馬(森林総研)	AW211 AW311
菅孔太朗(鹿児島県立錦江湾高)	C207	○ 松本吏樹郎(大阪市立自然史博物館)	A108 CW211
○ 片倉晴雄(北大院・理・自然史)		松本忠夫(放送大・教養)	
勝山礼一朗(九大院・比較社会文化・生物体系)	A105	○ 松村洋子(北大・農・昆虫体系)	D308
○ 河合章(近畿中国四国農業研究セ)		○ 松野倫也(大阪大院・理・情報生物)	E107
河上康子(高槻市)		○ 松尾和典(九大・生資環・昆虫)	B105
川村緯気(茨城大・理)	C306	三浦一芸(近畿中国四国農業研究セ)	E309
川崎典晃(大阪府大院・応用昆虫)	D208	味村泰代(三重大・教育)	EW212
河瀬直幹(みなくち子どもの森自然館)		南島誠(長野県南信農業試験場)	S2B3
川添和英(ジェイアール東海高島屋)	D212	○ 三島美佐子(九大・総合研究博物館)	B206
城所久良子(農生研)	B310	○ 三田井克志(九大・総合研究博物館)	A201
○ 菊地友則(琉球大・農)	S2A2	○ 三田敏治(九大・生資環・昆虫学)	A111
菊川茂(富山大・理・生物学科)	C102	三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館)	S1B4
○ 喜久村智子(沖縄県農業研究セ)	B311	宮永龍一(島根大)	
○ 桐谷圭治(伊東市)	E305	○ 宮野伸也(千葉県立中央博物館)	E206
○ 岸本年郎(自然環境研究セ)	B112 CW312	○ 宮武頼夫(奈良県橿原市)	
北出理(茨城大・理)	C210	水越敦(北大・農・昆虫体系)	B111
○ 北原正彦(山梨県環境科学研)	S1B2	水野孝彦(名古屋植物防疫所)	
○ 北村登史雄(野茶研)		百野直実(広島市森林公園昆虫館)	
○ 北野伸雄(九大・農・昆虫)	A203	森勇一(金城学院大)	B203
○ 小林茂樹(大阪府大院・生環科・昆虫)	A102	○ 本野優(大阪府大院・生環科・昆虫)	D107
○ 小林幸正(首都大)		○ 村井悠孔(九大院・比較社会文化)	
○ 江田慧子(信州大・農)	D203	○ 村田祐亮(北大院・環境科学院)	B207
○ 河野勝行(野茶研)	S3A1 BW213	N	
小出哲哉(愛知県農業総合試験場)	E103	長澤淳彦(中央農研・北陸研究セ)	E108
○ 小島純一(茨城大・理)	B107	○ 長太伸章(京大院・理)	EW321
小溝克己(鹿児島県立錦江湾高)		○ 中垣裕貴(筑波大院・生環科)	B110
○ 近藤雅典(九大院・比較社会文化・生物体系)	B106	○ 中浜直之(京大・農)	
○ 小西和彦(北海道農業研究セ)	A107	○ 中村寛志(信州大・農)	D202
○ 久保田耕平(東大院・農生科)	DW212	○ 中村剛之(栃木県立博物館)	A312
○ 工藤慎一(鳴門教育大)	DW311	中西友章(徳島県・果樹研究所)	C106
藏満司夢(筑波大・生命環境)	C206	○ 中尾史郎(京都府院・生命環境)	C201
○ 倉西良一(千葉県立中央博物館)	B102	○ 中瀬悠太(京大院・人間・環境学研究科)	E102
栗原隆(農環研)	A212	○ 直海俊一郎(千葉県立中央博物館)	B212
桑原隆明(金沢大院・自然科学・生態学)	E208	新部公亮(日本蝶類研究会)	AW214
L		新穂千賀子(兵庫県立大・環境人間)	E106
○ 劉会(九大院・生物資源環境・昆虫)	A302	○ 新倉和宏(首都大・理工・動物系統分類)	B204
M		西原昇吾(東大・農生科)	AW313
○ 前野浩太郎(農生研)	C203	○ 西本浩之(愛知県農業総合試験場)	D108 S3B4
○ 前藤薫(神戸大院・農)	D206	○ 西本裕(小林聖心女子学院高)	
Makatiani Jacqueline(九大院・生資環)	E308	○ 西村知良(日本大・生物資源・教養)	DW313 C107
○ 牧野俊一(森林総研)	C110	○ 野村周平(国立科博・動物)	D209
○ 間野隆裕(豊田市矢作川研究所)		○ ノヴコヴィチビリャナ(北大院・環境科学院)	B209

○ 沼田英治(大阪市大院・理)		○ 清水晃(首都大・理工・生命科学)	D305
O		○ 宗林正人(皇學館大)	
○ 小田切顕一(九大院・比較社会文化・生物体系)	DW213	○ 須田大祐(筑波大院・生環科)	C205
○ 小川浩平(高知大・農)	E310	○ 末吉昌宏(森林総研・九州支所)	D105
○ 大原昌宏(北大・総合博物館)	CW315	○ 須島充昭(東大院・総合文化)	A311
○ 大原直通(九大院・生資環・昆虫)	A304	○ 鈴木紀之(京大院・農・昆虫生態)	E303
○ 大場信義(横須賀市自然・人文博物館)		○ 鈴木誠治(長岡技術科学大)	E110
○ 大庭伸也(長崎大・熱帯医学研究所)	D201	T	
○ 大野正彦(東京都健康安全研究セ)	B103	○ 田渕研(中央農業総合研究セ)	C202
○ 大島康宏(栃木県立博物館)	A106	○ 立川周二(NPO 法人自然環境復元協会)	AW314
○ 太田泉(野茶研)		○ 館卓司(北大・総合博物館)	D306
○ 太田有理(北大院・理・生物科学)	B303	○ 多田内修(九大院・農・昆虫)	
○ 岡崎達也(茨城大院・理工)	E207	○ 高橋明彦(中央農業総合研究セ)	
○ 奥寺繁(九大・生資環・昆虫)	A305	○ 高橋純一(京大・生態学研究セ)	S2A3
○ 奥野絵美(名大・文学研究科)	B202	○ 高野俊一郎(九大)	C108
○ 大草伸治(一宮市)	BW321	○ 高島拓也(神戸大院・農)	C101
○ 奥島雄一(倉敷市立自然史博物館)	A204 CW212	○ 高須賀圭三(愛媛大院連合・農)	C303
○ 小野田晃治(千葉シャープゲンゴロウモドキ保全研究会)	E302	○ 高須啓志(九大院・農)	S1A2
○ 小野亨(宮城県古川農業試験場)	S3A2	○ 武田光能(野茶研)	
○ 小野知洋(金城学院大)		○ 田中寛(大阪府環境農林水産総合研)	E307
○ 大里沙羅(首都大・生命科学・動物系統分類)		○ 田中宏卓(琉球大・農・昆虫)	C310
○ 大澤直哉(京大院・農・森林生態)	C209	○ 田中一裕(宮城学院女子大・一般教育)	C103
○ 大塚公雄(京大院・農・昆虫生態)		○ 田中晋吾(北大・サステイナビリティ学)	S1A4
○ 大槻章子(北大院・農・生物生態学体系学)	B201	○ 田中陽介(九大院・システム生命科学)	E301
S		○ 田中裕一郎(アピ株式会社)	BW322
○ 三枝豊平(福岡市)	A310	○ 谷聡一郎(九大院・生資環・生物的防除)	E209
○ 斉藤明子(千葉県立中央博物館)		○ 立田晴記(琉球大)	B304
○ 斎藤歩希(茨城大・教育)	B108	○ 寺本悠子(筑波大院・生環科・持続環境)	EW214 D110
○ 齋藤哲夫(名古屋市)		○ 戸田正憲(北大・低温研)	B101
○ 坂本佳子(大阪府大院・生環科)	C301	○ 等々力成史(京大院・農・昆虫生態)	E104
○ 鯨島由佳(京大・生態学研究セ)	EW314	○ 所諭史(茨城大院・教育・生物)	D210
○ 佐野正和(北大院・農・昆虫体系)	C112	○ 徳田誠(理化研・植科研セ・生長制御)	C308
○ 笹川浩美(日本科学技術振興財団)	E204	○ 友国雅章(国立科博)	
○ 笹川満廣(枚方市)		○ 津吹卓(十文字高)	AW212
○ 佐々木謙(金沢工大・人間情報システム研)	S2A1	○ 土田浩治(岐阜大)	
○ 佐藤綾(琉球大・理)		○ 土屋慶丞(釧路市立博物館)	
○ 佐藤宏明(奈良女子大・理)	C309	○ 辻英明(環境生物研究会)	
○ 佐藤智(山形大・農)	D102	○ 塚田森生(三重大院・生物資源)	
○ 佐藤信輔(宮崎大・農)	A308	○ 塚田拓(虫央堂)	
○ 佐藤安志(野茶研)	E311	○ 鶴井香織(京大院・農・昆虫生態)	EW313
○ 沢田佳久(兵庫県博)	D303	○ 鶴崎展巨(鳥取大・地域・生物)	B308
○ 佐山勝彦(森林総研・北海道支所)	E210	○ 鶴智之(北大院・農・昆虫体系)	
○ 瀬島翔馬(九大・生資環・昆虫)	A210	○ 塘忠顕(福島大・理工・共生システム理工)	
○ 関谷薫(筑波大院・生環科)	B104	U	
○ 千田喜博(愛媛大・農・環境昆虫学)	A205	○ 内船俊樹(横須賀市自然・人文博物館)	D311
○ 嶋田敬介(富山大院・理工学教育)	E109	○ 内山義政(京大・人間環境)	
○ 島田孝((株)静環検査セ)	A207	○ 宇高寛子(大阪市大)	BW211
○ 瀧洪(福岡市)		○ 上田明良(森林総研・北海道支所)	D211

上田絃司(岩手大院連合・農)	C212
○ 上田恭一郎(北九州市立自然史・歴史博)	D301
○ 上野高敏(九大・農院・生物的防除)	S1A3
浦野忠久(森林総研)	
○ 宇津木望(東大院・総合文化)	A309
W	
○ 和智仲是(九大院・システム生科・進化遺伝)	A109
○ 渡邊大(富山大院・理工学教育)	B205
○ 渡辺衛介(広島大)	BW311
○ 渡部宏(近畿大院・農・昆虫生態制御)	E211 BW313
○ 渡辺恭平(東京農大・昆虫)	A112
○ 渡辺守(筑波大・生物科学系)	EW211
Y	
○ 八尋克郎(滋賀県立琵琶湖博物館)	
○ 山田大邦(札幌)	D307
○ 山田竜平(大阪府大院・生環科・昆虫学)	D111
山田陽子(山形大院・農)	E105
○ 山田佳廣(三重大院・昆虫生態)	S1A1
○ 山岸健三(名城大・農・昆虫)	
山路哲生(伊勢建設事務所)	EW215
○ 山本博子(日本昆虫学会近畿支部)	
○ 山本哲史(京大院・理)	BW212
○ 山本周平(九大・農)	A206
○ 山崎聡子(北大院・理・多様性生物学)	B302
山迫淳介(愛媛大・農・環境昆虫)	A211
○ 山内健生(富山県衛生研究所)	D310
○ 安田弘法(山形大・農)	D101
○ 安岡拓郎(神戸大院・農)	C208
○ 矢田脩(九大院・比較社会文化)	A104
○ 吉田正隆(徳島昆虫研究会)	
○ 吉松慎一(農環研)	A103
吉村真由美(森林総研・関西支所)	D112
○ 吉武啓(農環研)	A209
○ 吉安裕(京都府大院・生環科・応用昆虫)	
○ 吉澤和徳(北大院・農)	B307
○ 湯川淳一(九大)	A307



三重大学キャンパス配置図

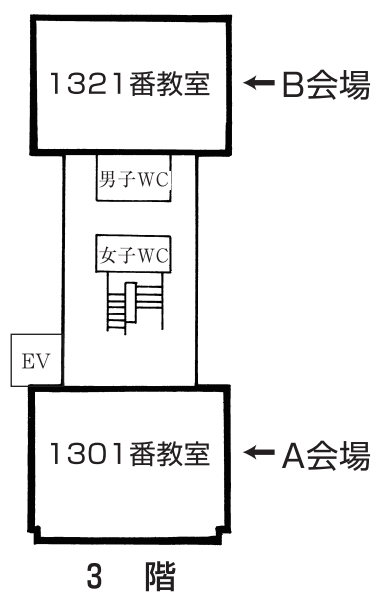
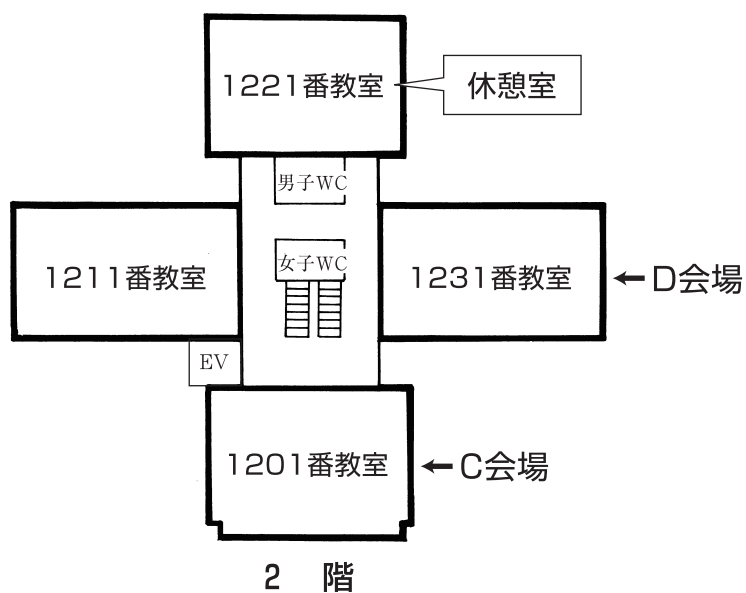
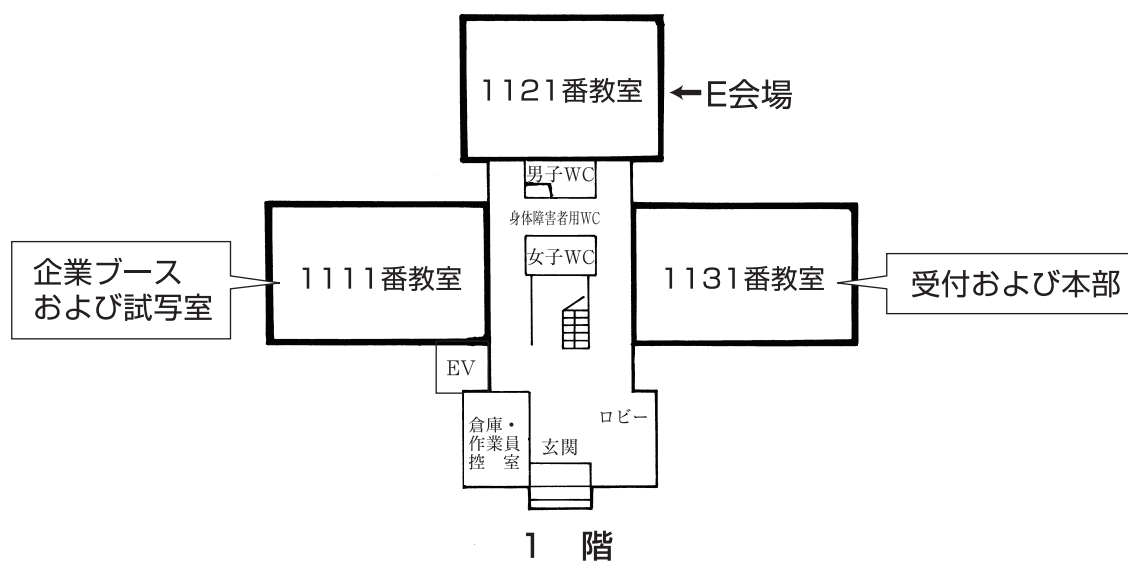


三重大学周辺図

三重大学までの交通経路

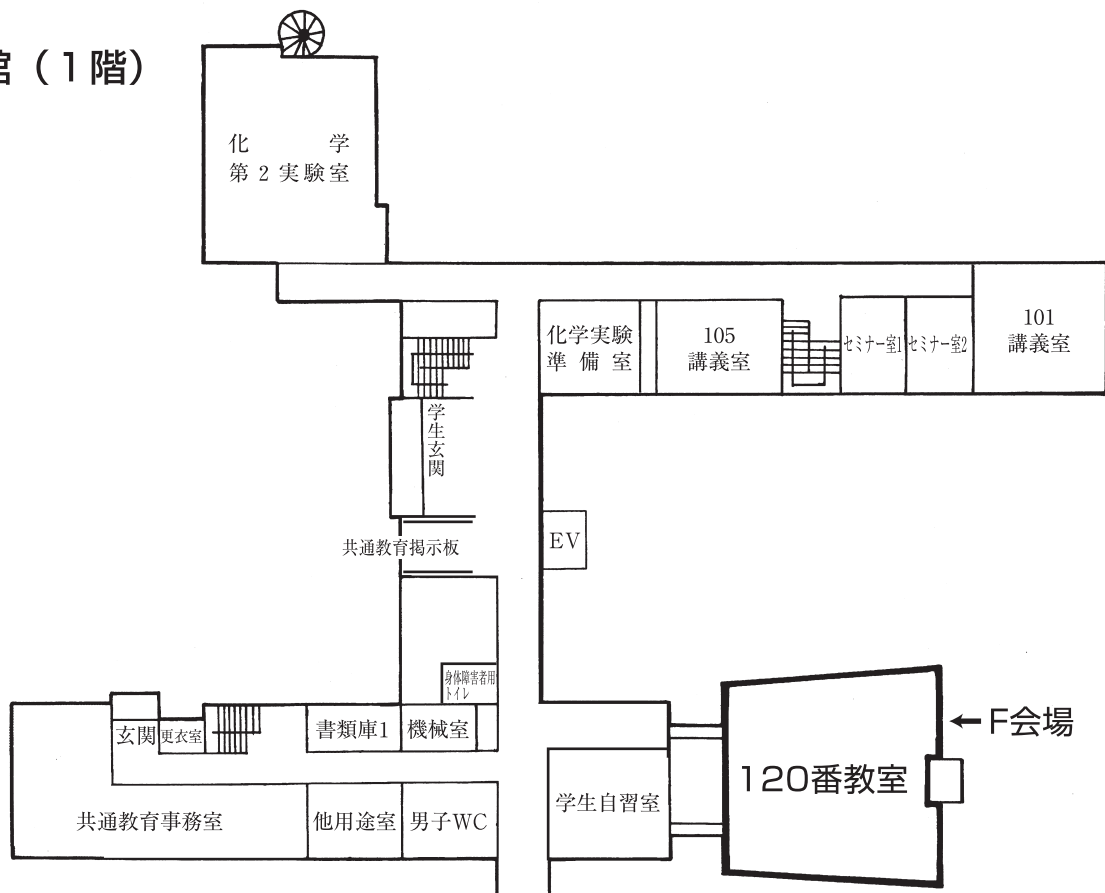
- ・ 津駅前バスのりば「4番」から三交バスで、「白塚駅前」(06系統)、「太陽の街」(40系統)、「三重病院」(51系統)、「棕本(むくもと)」(52系統)、「豊里ネオポリス」(52系統)、「三行(みゆき)」(53系統)行きで、「大学前」下車。
(附属病院、医学部、工学部へは「大学病院前」下車)
- ・ 津駅からタクシーで約10分
- ・ 近鉄江戸橋駅(三重大学前)から徒歩で約15分
- ・ 中部国際空港(セントレア)から津エアーポートラインで津なぎさまちへ40分
「津なぎさまち」から三交バスで「津駅前」まで約15分
「津なぎさまち」からタクシーで津駅まで約10分

受付・一般講演の会場案内図（3号館）



シンポジウム会場案内図（1号館・2号館）

1号館（1階）



2号館（1階）

